

夏休み勉強会の「先生」は大学生



スコールとは、ギリシャ語で「学び」「余暇」「遊び」を表す言葉。スクールの語源でもあります。

多賀城市立の小中学校に通う子どもたちが夏休みに自主的に勉強ができるよう、多賀城市教育委員会が平成21年度から開催している勉強会「多賀城スコール」。今年の夏休みは5日間の日程で行われ、小学4年生から中学3年生の子どもたち110人が参加しました。「多賀城スコール」が始まった当初からボランティアで学習のサポートをしているのが、東北学院大学の学生・大学院生のみなさん。今回は「教えることに興味があった」などのきっかけで希望した13人が、勉強を見守りながら個別の質問に答えたり、問題を一緒に考えつつ解き方のアドバイスを行いました。活動が終わった後、「ちゃんと教えられてよかった」「顔を覚えて声をかけてくれてうれしかった」と話してくれました。また、子どもたちからも「分からないところを質問しやすかった」「一緒に勉強できて楽しかった」という声があり、学生のみなさんのサポートによって勉強がはかどり、学ぶ楽しさを見つけれられたようです。



朝の受付にて。顔なじみになった子どもたちから声をかけられます。



こちらは中学生のクラス。分からないところを丁寧に教えていました。



質問に答えるだけでなく、漢字のテストをその場で作って解いてもらったりもしていました。



ヒント from “たがさぽPress”

たがさぽのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ

<http://blog.canpan.info/tagasapo/>

●「助成金申請のポイント」のご紹介 2015年8月18日(火)掲載
自身の想いだけを先行せず、地域のニーズに合っている事業を行い、事業後の成果を数値化することが大切です。

●おやじパワーで地域を盛り上げる 2015年8月20日(木)掲載
父親同士の交流や子どもたちとの触れ合いを通して、地域の良さを実感できる「新たなふるさとづくり」を目指すおやじの会の取り組みをご紹介します。

●まちの魅力再発見！手書き地図のススメ 2015年8月27日(木)掲載
作者の想いが主観的に表れる手書きの地図。作者にとって気になるコト・モノが盛り込まれていて、新たな地域資源の発見につながります。



たがさぽからのお知らせ

たがさぽが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

NPOいちから塾

私たちの身近なところでもさまざまな活動をしているNPO。この講座では、NPOの言葉の意味や成り立ち、しくみ、具体的な活動事例を分かりやすく解説します。NPOに興味がある・参加してみたい人はもちろん、あらためて勉強したい人にもおすすめです。

日時	2015年10月17日(土) 午前10時30分～午前12時
会場	多賀城市市民活動サポートセンター
費用	無料
定員	10名(先着順/要事前申込)
申込	多賀城市市民活動サポートセンター窓口または電話にて
問合	022-368-7745(多賀城市市民活動サポートセンター)

“たがさぽPress”とは？

たがさぽスタッフによるブログ。興味が湧いたらたがさぽPressへ！ ＊ケータイ、スマホからご覧いただけます。





求む！ まちの盛り上げ役！ ～多賀城のために活動する人を増やしたい～

多賀城や近隣のイベントの運営に携わっている「多賀城フェスティバル実行委員会」。
団体の活動やこれからの多賀城について、代表の菅野伸昭さんにお聞きしました。

多賀城に新たな風をもたらす若者たち

「多賀城フェスティバル（以下、多賀フェス）」の前身であった「多賀城月の市」は、東日本大震災後に多賀城市と商工業関係者が中心となり産業面の復興を目指して平成25年度まで開催されてきました。それを引き継ぐ形で平成26年4月に、より多くの市民に参加してもらうべく、多賀フェス実行委員会を結成しました。スタッフは20～30代の若者が多く、新しく加わったメンバーも企画づくりやイベント運営を担っていて、地域で何かしたいと思っている若者たちの活躍の場、経験を積む場にもなっています。例えばイベントの際にスタッフが万葉風の衣装を着たり、多賀城産のニラを使った鍋を考えるなど、これまでになかったユニークなアイデアも生まれています。

他団体とのつながりが生み出すもの

平成26年10月に多賀城駅前で開催した第1回多賀フェスでは、焼きさんまの無料提供や各種飲食ブースの出店、ライブステージなどを行い、多くのお客さんに楽しんでもらうことができました。今年度は駅前の再開発で会場が使えないため開催できませんが、塩釜市の「SENSEKI TRAIN FES」や七ヶ浜町の「SEVEN BEACH FESTIVAL」などに協力し、他団体とのつながりを強めつつイベント運営の経験を重ねてきました。このような形で連携することで人材の育成や交流もできますし、多賀城だけでなく二市三町エリア全体の活性化にもつながります。また、今年は「史都多賀城万葉まつり」とも連携し、青森県五所川原市の団体から寄贈を受けた立佞武多（たちねぶた）を運行します。いずれは坂上田村麻呂など多賀城ゆかりの人物のねぶたを団体で作成する計画もあります。

「見る」祭りから「関わる」祭りへ

多賀城の祭りは、どちらかというと市民が「見て」楽しむものが多いと感じています。多賀フェス実行委員会では多賀フェスや他のイベントに多くの市民のみなさんに「関わって」もらい、自らの手でイベントを作り上げる楽しさを知ってほしいと考えています。そのような祭りが根付くことで、多賀城を今よりも良くしよう、盛り上げようとする人が増えてきます。そして、市民発の企画が市民自身の手で実行に移せるようになれば、さらに人が集まり交流が生まれ、多賀城を盛り上げることができるのではないのでしょうか。



「多賀城フェスティバル実行委員会」
について詳しくはこちらを！

Facebook ページ <https://www.facebook.com/taga.fes>



「tag」には、多賀城（tagajo）の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ（価値）をつける、という意味が込められています。



「たがさぽ」ではツイッターもやってます。フォローお願いします！
@tagasapo



「たがさぽ」ホームページはこちら
<http://www.tagasapo.org/>



代表の菅野さん。持っている紙の左の絵は、多賀フェスのイメージキャラクター「多賀さん」。



多賀フェス準備中。多くの若者がスタッフとして活躍しています。



昨年の多賀フェスの様子。焼きさんま無料提供のブースには、多くの人を列を作りました。